

【めむろ未来ミーティング】

種類：テーマ別（新嵐山改革）

令和2年6月24日（水）

19:00～20:20

めむろーど2階セミナーホール

■参加者 15人

■芽室町 町長、商工観光課長、商工観光課長補佐（新嵐山改革担当）

■記録 玉堀、今森、池田

**■ただちに対応・検討が必要な事項は、ありません。
いただいたご意見を今後の新嵐山改革に生かして
まいります。**

- 1 開会
- 2 町長あいさつ
- 3 町からの説明事項
『新嵐山活用計画 Rural inn ザ・スカイパーク』
- 4 意見交換

【意見】

ターゲットの設定のところで、インバウンドは、どの程度狙っていくことを想定していますか。新型コロナウイルス感染症の影響などで状況が変わっていると町長もおっしゃっていましたがいかがでしょうか。

【町長】

台湾からのお客様が、既存で利用いただいているような流れもあったことから、コロナ前はそういった客層を増強して狙っていこうということであったが状況が変わっている。ターゲットとしては、インバウンドもあり続けてよいと思っている。完全に見直す

わけではないが、国内・道内のお客様をまずは優先的に狙っていくことが中心になると考えている。海外から日本に来る人が当面少なくなると思うが、日本から海外に行く人も少なくなる。

そうすると近い場所で、国内・道内で楽しもうという人が増えてくると思う。そういったところを優先的に狙っていきたいと思っている。

【意見】

町民としては、町外のお客様を呼ぶことも大事だが、今以上に町内の町民を大事にするような施設になれば素晴らしいと思う。

【町長】

ありがとうございます。ファミリー層に焦点を当てたということも、今おっしゃったように町民の方に利用してもらいたいという考えです。

パークゴルフを否定するつもりはまったくないのですが、どうしても家族で一日半日と考えるとパークゴルフだけでは難しいのかなと思っています。

多世代・広い世代、もちろん町民も含めてきていただくためにも、ファミリーや女性を起点にターゲットを据えたという発想です。

【意見】

地域の女性団体などで1年に1度会合などでランチも兼ねて利用していました。ランチもおいしいし、社員にもよくしてもらっていたからでした。計画はよいと思うし、地産地消の食の部分にも期待するが、今の新嵐山の状況ではぜひ行ってみたいと思えない。

なぜなら、周りの環境が荒れているから。どういうことかということ、オオバナエンレイソウや北海道らしい植物が生えていたり、宿根草や季節の花がきれいに咲いているところもあるとは思いますが、整備されていない、今の新嵐山は、デザイン的にもよいと思えなかったり、きれいではない。入り口やレストランに入るまでのエントランスのデザインが殺風景であったり、北海道らしい自然の環境を感じられるようなところだと行きたいのですが、荒れているなという印象で残念。

計画に期待しているが、外からの人を呼ぶためだけの仕掛けではなくて、ごはんをちょっと食べにいいかなとか、庭を見に散歩しに行こうかなとか、そんなことを目指すのは今からでもできるのではないのでしょうか？

それと日陰が少なく、なかなかのんびり過ごすのが難しいので日陰を増やすとか、休める場所を増やすなど、近くの人も気軽に行きたいような仕掛けを作るとか、環境をきれいにしていくなど、今からでもできることをやってほしい。

また、実際の女性にも見てもらって女性目線で参考にしながら整備してもらいたいと思う。

【町長】

大変参考になるご意見をありがとうございます。

そもそも今回の計画の中で、わたしたちも新嵐山の自然をメインにしなければならないと思っている。

ワイナリーが建ち始めているが、あまり人工の工作物でどうこうしようと思っていない。自然を生かすのが持ち味だと思う。環境整備については、今の時点でもできることはしていきたいと思っている。

景観、自然、環境を大事にしたい。肝に銘じたい。自然を生かすという方向性はもちながら運営したい。

また、食事も農業をメインとしたコンセプトで、新鮮なものを組み合わせ魅力アップしたい。これまでに以上に力を入れたい。

【意見】

スキーのリフトの夏利用を検討したのか。ニュージーランドの北島の観光地、雪が降らないところの山にリフトがかかっていました。山に色肌のような舗装になっていて、そこを滑り降りるようなアクティビティがありました。舗装から外れても草地から戻れるようなつくりになっている。スピードを上げて降りれるし、抑えても降りれるような整備がされていて、乗ってみるとスキーみたいな面白さがあった。夏のリフトの利用として、舗装を少ししても環境がそれほど壊れることはないし、ぜひ検討してほしい。また現地をみてほしい。

【町長】

16 ページに夏場のリフト運行を記載しています。

頂上からの景色を求めている人もいるし、夏場もリフトを使えるように検討したい。アクティビティもジップラインなど取り入れたいと思っている。スケジュールについては運輸局などの許可も必要ではあるが令和7年ぐらいからできるように進めていきたい。

また、頂上に行くために、林道を整備したり徒歩で登るための木道などの環境整備もしたい。それと電動アシスト自転車だと簡単に上に上がれるという実験結果もあるので、さまざまな方法を考えて実施していきたいと思っている。

【意見】

ニュージーランドのリフトの利用の仕方、一度ぜひ見てみたらよいと思う。私はとても楽しかった。

【町長】

なかなか行くことは難しいと思うが、今後も具体的な情報をお聞きできればと思っている。

【意見】

活用計画について横文字が並んでおり、難しいところがあった。スマートフォンを片手に調べながら、お聞きしていた。リユラルやプロポーザルなど、もう少しわかりやすく説明してほしいと思う方も多いのではないのでしょうか。

民間の企業が多くかかわるようになってくるところで、町の土地に、ワイナリーなど民間企業が建物を建てる。これはなかなかないことで、すごいことだな、失敗できないことだなと思いました。失敗を望んでいるわけではないし、新たに始まったワインにがんばってほしいと思っていますが、例えば、気候変動など様々な要因で、事業がうまくいかなくなってしまう場合に、町はお金を出して助成をしたりするのか、そのあたりは、どのようにするのでしょうか？

【町長】

まず前半の横文字ですが、なるべくわかりやすくお伝えすることを心がけていきたいと思います。

後段のお話ですが、町としては運動広場の東側について、これまでも利用が少なく、せっきくの土地を有効活用したいと考えました。しかも、この計画に沿った内容で、新たな魅力を生み出せると判断したもののについて「使用許可」を出したというのが実態です。

その使用許可書の中では、一年間の期間で使用を許可し、それを、毎年更新するかどうか都度判断していくというところになっています。

なにか建物を建てる場合の建設費用や、経営状況の悪化などがあって撤退せざるを得ないときは、民間の負担で「原状回復」することも使用許可をした相手の民間に実施してもらうことをルール化して許可を出しています。

少し語弊があるかもしれませんが、大家さんとして土地を貸し、かつ、自分たちの計画に合致したところに貸しています。しかも、リスクかなにかがあってだめだったときにも自分たちで現状復旧するということも含めて契約を締結しています。

スタートから数年間は経営状況なども見せていただきながら更新をしていき、その後は順調にいくようであれば、契約の方法なども別の形を検討していかなければならないと考えています。

そういった意味では公的資金は一切、今後も使うつもりはないですが、同じ場所でまちづくりのためにやっていく民間企業になりますので、町、指定管理者、事業者で相乗効果を生み出せるようにしていきたいと考えています。

【意見】

土幌の道の駅を作ったとき、当初は外部から多くの人を呼び、観光地にしたいという考えだったのだが、町民から、それではだめだ。町民に来てもらえるようにしないと。ということで、自分たちで農家さんが立ち上げた会社を中心になって運営しているところだ。

新嵐山については計画を聞くと、いろいろなところから人が来てほしいというように聞こえるのです

が、せっきく変わるなら結局はめむろの人が行きたいと思える場所にしてほしい。よろしくお願いします。

【町長】

ありがとうございます。

今回の土地をお貸した事業者も、芽室町のブドウの生産農家さんが中心になって立ち上げた会社です。町づくりのためにという気持ちでやっているのです。町民の方の協力ももらいながらやっていると思っていますし、今後、まちづくりの拠点にしていきたいと思っていますので、しっかりした協力体制でやっていきたいと思っています。

また、町民の憩いの場という観点を失ってはけません。最終的には、町民の方が使ってほしい、使ってもらわないとならないなと思っていますが、最初から町民の方だけが使うことを目指して進めるのではなく、変わっていくには、町外の人も魅力に感じるものを目指してやっていかないとかなと思っています。交流人口を増やしていきたいと申し上げましたが、やはり魅力のある場所になれば、自慢したくなる、誇りに思う場所になり、自分も行ってみたいと思ってもらえると考えている。そうして、最終的には、町民がよく使う場所になる。そんなことを目指しています。だからこそ、町が財産として持ち続け、手離さないでやっていくという意味をもっていますので、ご理解いただければと思います。

【意見】

展望台が好きで、月2回は車で登っています。展望台上ってからの眺めが好きで行くんですが、景色を見ながら、「あの山は何という山か」といった表記があってほしいと思います。よく他の展望台では、見ている方向に何があるかを指している表記があると思うので、やっぱりああいうのは欲しいと思います。

それと、今の展望台のトイレは、ちょっと使いたくないトイレですね。決してきれいではないし、なんとかしてほしいと思います。

【町長】

ありがとうございます。

以前は、展望台の木製の一番上がったところに山に合わせて表示が掲示されていたのですが、古くなってしまった。

また、南西の方の山々が木の陰になって見えなくなっているのも課題です。今後、展望台についてなにかしら改修したい。そこに合わせて表示をつけたり、山が見渡せるようにしていきたい。

また、トイレもその頂上の整備のタイミングできれいにしていきたい。いまはちょっとウッド調の仮設ですがきれいなトイレを置くようにしています。

頂上に立っているトイレは、水洗でなかったり、いろいろなお話もいただいていたので、昨年度から仮設トイレで対応をしています。

貴重なご意見をありがとうございます。

【意見】

運動広場の方でワイナリー建設を実施しています。

私は農業者であり、先祖の代から、種を植えて作り上げることしか見てこなかった。今回のワイナリーも種を植えてブドウを育て、それをみんなに楽しんでもらえるものに変えていこうところから、チャレンジしています。

実は、世界のワイナリーはほとんど資本家が行っています。我々のように小さな農家がやっているのはあまりないようです。でも農家が自分でやらないと、いいブドウを作ろうという気持ちになれないと思います。

先日北海道のあるワイナリーさんとお話しさせていただきました。この方はフランスで修業し、自分でソムリエも持っています。何年もフランスのワインづくりを見てきて、最後は自分でやらないと気が済まない。と思ってやっているそうです。自分たちもそんな考え方に共感して、ぜひ理念を聞きたいとお願いして、2時間話してもらえました。あまりありえないことみたいです。受け入れてくれないみたいです。なぜ自分たちをうけいれてくれたかということ、自分たちが農家だからということ、ワインづくりを十勝のさむいところでやろうということに共感してくれ

た。そんな気持ちをもって新嵐山を盛り上げられたらと思い、プロポーザルに参加し、選んでいただきました。

さきほど別の方もニュージーランドの話をしていましたが、私も旅行に行くと、その地の楽しみ方を見て、体験してきました。同じような体験でアスファルトの上で、そりに乗って押してもらって町中を走るだけのところでしたが名物になっていました。ジップラインが活用計画にもありますが、私はハワイでも体験しました。そこは3時間くらいかけて何本も乗れるようなところなんですが、その土地の歴史を聞きながら、もともと農地だったとかカメハメハ大王の話とか、そういうところを語ってもらう。その語っている場所を実際に見てもらうためのジップラインでした。

それぞれ、その地の利を生かしたもので、それなりに値は張るけど、そこにお金を落としたいなと思うものでした。その地の人から見れば我々がインバウンドですよ。世界には、そんな外からの人がお金を落とすようになるような観光地がたくさんあります。

私も、ぜひ見に行ってもらって感覚を共有したいと思います。

自分は、興味のあることは全部試してみた。できるかわからないがブドウづくりも初めて、ヨーロッパ品種の収穫も始まりました。

この、未来ミーティングは町長や町に対して、「○○してくださいよ」ということではなくて、自分たちになにができるか、農業者でもサラリーマンでも関係なく、自分たちで未来を作るためにどうしたらいいかというミーティングにしないと絵に描いた餅になるとおもいます。

私は、新嵐山で自分にできることを仲間とともにワインづくりを通じて実現したいと思います。

令和2年度めむろ未来ミーティング報告書（6/24 めむろード2階セミナーホール）



20:20 終了